



No. '20-1

(No.100)

Jan. 2020

ISGG NEWSLETTER

伊東市善意通訳の会

C O N T E N T S

1. 2020 年の干支（えと）は「庚子」	事務局長	小西恒男	2
2. 台風（Typhoon）・・・そのⅡ	会員	菊池善次郎	5
3. 3 外国人（英・独・豪）のガイド報告	会員	加藤守康	11
4 .バクチの木	会員	石田泰嗣	12
《事務局だより》			14
《編集後記》			15



K's サロンにて

2020年の干支（えと）は「庚子」（こうし）



事務長 小西 恒男

読者の皆さん、新年おめでとうございます。

2020年が始まりました。今年は東京五輪・パラリンピックの年で、有望な競技・選手・メダル数の予想など連日TVなどで取り上げられ、既に大きな盛り上がりを見せています。また、オリンピックの開催に合わせて来訪する外国人は例年の何倍にも膨れ上がり、彼らが全国各地を廻り日本の良さを捜し歩くことは想像に難くありません。我々SGGの活動に大きな期待が寄せられることでしょう。

さて、毎年年末になると「来年の干支（えと）は？」という質問が出て、12支（動物の名前）を口にするようになる。

日本における年代の表示は、1873年（明治6年）に太陽暦（西暦表示）が採用されるまでは古くから10干12支の組合せで年号を表してきた。

古代中国（1～2世紀ごろ）では1年を12か月に分ける際、各月をわかりやすくするために動物の名前をつけた。神が動物に競争させ到着順に名前を付けるという話が伝えられており、次のように決められた。

「子（ね）」「丑（うし）」「寅（とら）」「卯（う）」「辰（たつ）」「巳（み）」「午（うま）」「未（ひつじ）」
「申（さる）」「酉（とり）」「戌（いぬ）」「亥（い）」

12支の第1位がネズミ「子」であり、今年はこのネズミ年にあたる。

ネズミは丸い耳、尖った鼻、長い尻尾を持った哺乳類の動物で、全世界のあらゆる場所に生息している。また、種類は多く1300種類にも及ぶという。(ブリタニカ百科事典)

又、繁殖力が旺盛である。

英語では”Rat “と” Mouse “があるが、Rat は大型のネズミを、Mouse は小型を表す。

伊豆シャボテン公園の人気者「カピバラ」も Rat である。また、Mouse を「ハツカネズミ」と呼ぶが、生まれて20日で大人に成長することから繁殖力の象徴としてこのように呼ばれている。

ネズミの語源を見ると江戸時代の学者が次のように解説している。

①ねずみは「ぬすみ」につながり盗みをする動物（貝原益軒「日本釈名」）

②根の国（闇）に棲んで悪いことをする動物（新井白石「東雅」）

昔から日本人にとってネズミのイメージは余り良いとは言えない。

外国においては14世紀ごろヨーロッパでペスト（黒死病）が流行し、当時1億人の人口の実に3千万人もの死者を出した。ネズミがペスト菌の媒体物であると恐れられた。

1894年（明治27年、日清戦争勃発の数か月前）香港でペストが流行した際、いち早く日本から北里柴三郎のグループが香港にわたり、患者とネズミの血液から「ペスト菌」の正体を顕微鏡で捉え、消毒法を確立、流行を短期間で収束させたことで、伊東ゆかりの北里博士が全世界の注目を集めたことは特筆すべきことである。

ネズミのイメージで良いものも多い。

古事記において素戔鳴尊（スサノオノミコト）の娘スセリ姫に求婚する大国主命（おおくにぬしのみこと）がスサノオから試練を与えられる。スサノオの命令で鎬矢を探しに行き、広い野原の中で火をつけられ、あわや焼死する寸前、1匹のネズミが現われ大国主命を助ける。大国主は無事鎬矢を届け父親の許可を得てスセリ姫を娶る物語である。その後ネズミは神の使者として取り扱われることになる。

12支については方角や時刻にも使用されている。

子は方角で北、時刻で言うと午前零時となる。

ネズミに関する慣用句、諺を紹介する

- ・ 大山鳴動し鼠 1 匹
- ・ 窮鼠猫を 噛む
- ・ ネズミは沈む船を見捨てる (Rats desert a sinking ship.)

10干12支について

古代中国では1か月を3分割し、「旬」(10日)に順序符号をつけた。これが10干で、漢字で表すと「甲(こう)」「乙(おつ)」「丙(へい)」「丁(てい)」「戊(ぼ)」「己(き)」「庚(こう)」「申(しん)」「壬(じん)」「癸(き)」となる。

10干12支の漢字表記は既に殷の時代(紀元前2000年頃)には存在していた。同時代に出土された甲骨文字にこれらの漢字が見られる。

春秋戦国時代(紀元前5世紀頃)になって陰陽5行思想が起こった。万物の構成要素は「木」「火」「土」「金」「水」の5要素で、各要素は2面性(陰陽)を持つとされた。

この10干12支の組合せ(1サイクル60)が年代を表す紀年法として使用され、この思想が暦法として6世紀に大陸から百済を経由して日本に伝来した。

日本では10干の陰陽を「兄(え)」と「弟(と)」として使用された。すなわち「甲(きのえ)」「乙(きのと)」、「丙(ひのえ)」「丁(ひのと)」、「戊(つちのえ)」「己(つちのと)」、「庚(かのえ)」「辛(かのと)」、「壬(みずのえ)」「癸(みずのと)」と読まれることになる。

今年の2020年は10干12支の組合せでいうと庚子(かのえ・ね)の年になり、60年毎に庚子が巡ってくることになる。

日本の歴史で庚子の年というと、例えば西暦1600年が相当する。この年は伊東の歴史で言えば三浦按針につながる。「関ヶ原の戦い」の5か月前、ウィリアム・アダムス(後の三浦按針)のリーフデ号が九州に漂着し、大阪城で徳川家康に謁見した。家康に気に入られたアダムスは後に家康の命で初めての洋式帆船2隻を伊東で建造し、その1隻が初めて太平洋を横断したことが記録に残されている。

日本歴史の中で10干12支が使われている出来事をいくつか紹介する

- ・ 645年 大化の改新 乙巳（いっし）の変とも呼ばれる きのと・み の組合せ
- ・ 672年 壬申の乱 みずのえ・さる の組合せ
- ・ 1867年 戊申（ぼしん）戦争 つちのえ・さる の組合せ
- ・ 1911年 辛亥（しんがい）革命 かのと・いのしし の組合せ など

今年が世界にとって、皆さんにとって良い年になりますように！！

台風（Typhoon）・・・・そのⅡ



会員 菊池善次郎

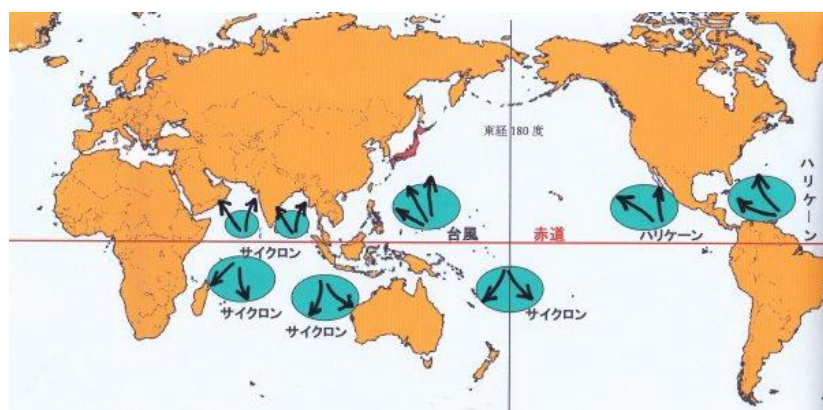
昨年東日本を襲った台風15号と19号による被害がまだまだ復旧していないところが各地に見られます。昨年の Word of the year は『令』となりましたが『災』や『雨』、『嵐』などの漢字も上位にランクされていました。本当に災害の多い年でした。

さて、前号ニュースレターに引続き今回は少し一般論的/グローバルな視点で“台風”を紹介します。

私は気象の専門家ではありません。しかし、仕事上常に台風や嵐について気をかけなければならない半生をおくって来ましたので、そんな中で見聞し、経験し、学んだことのほんの一部をご紹介しますものです。

●所変われば“呼び名”が変わる

台風は気象学的には“熱帯低気圧”のことです。詳しくは、熱帯（赤道を挟んで北緯24度と南緯24度の海域）付近で発生する低気圧のうち、最大風速が17m/sec以上のものを



「台風」と言います。更にそれは東

熱帯低気圧の発生海域と呼び名

経 100 度～180 度に囲まれた範囲の話です。

具体的には日本の南方海上やフィリピン近海が主な台風発生海域です。

その他の熱帯海域でも強風を伴う“熱帯低気圧”は発生します。しかしそれらは台風とは呼びません。上図参照（矢印は大体の進む方向）。即ち、北米西岸・カリブ海で発生するものを「ハリケーン」、南北インド洋やオーストラリア近くで発生するものを「サイクロン」と呼びます。何れも最大風速が 33m/sec 以上になったものをその様に呼びます。

（注）厳密には台風/ハリケーン/サイクロンの仕分けは単純ではなく、上記は一般的/常識的な

ものとご了解下さい。日本の気象庁はインド洋北部のサイクロンにつき最大風速を 17m/sec

以上としています。米軍関係機関の基準もあり、ややこしいので省略します。

尚、南米東岸や西岸、或いはアフリカ西岸の赤道付近（＝熱帯）では過去 100 年間に熱帯低気圧の発生はゼロ、或いは全く稀な現象となっています。チリやペルー沖での発生は過去ありません。

同じ熱帯海域なのに何故？主に海水温度の関係だと云うことです。

●海域による“呼び名”の縄張り争い

時々北米西岸近くで発生したハリケーンがどんどん西に進み、ついに東経 180 度線を越えて日本の近くまで来ることがあります。また、台風がどんどん西に進み、マレー半島（東経 100 度線）を越えてインド洋に進むことがあります。これらを「越境台風」と呼びます。これらは東経 180 度或いは東経 100 度の境界線を越えた途端にハリケーンは台風となり、台風はサイクロンと変わります。かなり海域ごとの縄張り意識は強い様です。

<越境台風の例>

* 2018 年 ハリケーン “ヘクター”・・・8 月メキシコ沖で発生。西進。2 週間後東経 180 度線を越え台風 17 号となる。名前はヘクターのまま。

* 2019 年 台風 1 号（パブーク）・・・1 月南シナ海で発生。西進。5 日後東経 100 度線を越えサイクロンとなる。名前はパブークのまま。

●台風の“おなまえ”

日本独自の命名方として、その年最初に発生した台風から 1 号、2 号、・・・とつけ、次の年には又 1 号、2 号、・・・から始めるやり方、ご存知の通りです。そして、又、これら 1 号、2 号、・・・にはそれぞれアジア名と云う名前がついています。

例えば、昨年を例にとると、

台風 1 号（2019 年最初の台風）	アジア名「パブーク Pabuk」
・・・	
台風 15 号	アジア名「ファクサイ Faxai」
・・・	
台風 19 号	アジア名「ハギビス Hagibis」
・・・	
台風 29 号（2019 年最後の台風）	アジア名「ファンフォン Phanfone」

<アジア名とは何か？>

あらかじめ日本、韓国、中国、台湾、フィリピン、タイ、ベトナムなど東南アジア諸国から提案された 140 個の台風の名前がリストアップされており、台風発生順に従ってリストの上位番号から順々に名前を付けていきます。140 個の名前を全部使い終わると再びリストの最初の名前に戻ります。つまり、1 年間に平均 27～28 個の台風が発生すると仮定すると 5 年後には又以前使った名前が使われる計算になります。

例えば、台風“ファクサイ”と云う名前は、去年は台風 15 号、その前の 2014 年は台風 3 号、2007 年は台風 20 号、2001 年は台風 25 号が何れも同じ名前の“ファクサイ”でした。

アジア名は 2000 年から始まった命名方で国際的な台風の名前でもあります。それ以前はアメリカが殆んど台風の名前を付けていました。

私が小学生だった昭和 23 年のアイオン台風、24 年のキティー台風は南伊豆の海岸沿いの道路を壊滅的に破壊しました。道の無い海岸沿いの岩の上を歩いて学校に通ったことを鮮明に覚えて

います。アイオンやキティーの名前も全てアメリカがつけたものでした。

●ハリケーンとサイクロンの名前

ハリケーンは当然ながらアメリカ（ハリケーンセンター）が命名。男女の名前を頭文字の A, B, C ・ ・ ・ 順にハリケーンの発生順に命名。年が変わると又頭文字 A の名前から始まります。

サイクロンの名前は発生頻度の高い海域のオーストラリアが主になって命名しています。

但し、北部インド洋（ベンガル湾、アラビア海）発生のサイクロンは海域に近いインド気象局が主に命名しているとのことです。

●“台風（英語の Typhoon タイフーン）”の語源は日本か？

どうもそうではない様です。諸説ある様ですが『昔から中国で強烈な風を伴う自然現象を「大風、TAI FUNG タイフーン」と云っており、その発音を英国人が真似て英語の「Typhoon」の言葉となり、やがて世界中に広まった。そして日本では江戸時代、強烈な風を伴うその様な自然現象に「颱風」の字を当てた。近年それが「台風」となった』、というのが、かなり信頼性のある由来ではないかと私は思います。

私の大学時代、英語の教材に英国の海洋文学作家ジョセフ コンラッド (Joseph Conrad 1857-1924) の “Typhoon” という短編小説（古い蒸気船で航海する船乗りの話）を使いました。本のタイトルに使われるほど “Typhoon” の言葉は英国では一般的英語になっていたんです。

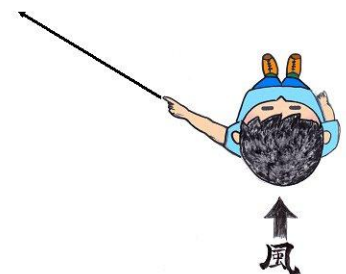
●バイスバロットの法則

難しい話ではありません。オランダの気象学者バイスバロットさん (Buys Ballot 1817～ 1890) があみ出した台風の位置を知る簡単な方法です。 右図参照。

『風を背にして立ったとき、台風を中心は左手を真横
よ

りやや前方（30 度）にした先にあり』

というものです。但し、地球の北半球で云える法則です。



南半球では「右手」と読替えて下さい。

その昔、帆船や機帆船が主流で船は小さくスピードも遅かった時代、しかも通信設備は全く原始的だった時代に於いては大変便利な法則であり、多くの船がこれにより台風から逃げる事が出来たそうです。

現代は陸上でも船の上でも何時でも気象情報が手に入る時代、こんな法則を知らなくても、と考えるかも知れません。それはそうですが、しかし、今でも利用価値はあります。

例えば、テレビで台風情報を見る時、台風の予報はあくまで予報。台風のスピードやコースは微妙に変化します。又、台風の経路図はあくまで過去の軌跡（足跡）です。厳密には「台風は今何処？」という答えはカーナビで自分の車の位置を知る様には分らないと云うことです。つまり「過ぎて見なければ分らない」と云うことだそうです。台風情報が「〇〇時頃、台風A号は△付近に上陸した模様・・」という曖昧な表現になるのはその為です。

そんな中、例えば家の中で台風の通り過ぎるのを待っている時、このバイスバロットの法則を利用し、且つ、最新の台風予報や経路情報と組み合わせれば、その時点の台風の位置を自分で推測できるというものです。「この強い風もそろそろ峠かな？」とか「台風の最接近点はもう過ぎたかな？」などと考える時、どうぞ使って見ては如何ですか。

●船(Ocean going vessel)の台風対策

大型船で航海中、台風やハリケーンと遭遇することが予想される場合どうするのか？

長さ 300m の大型コンテナ船も 30 万トンの巨大タンカーも大きな台風にはかきません。船のコース近くに台風 (or ハリケーン、サイクロン) が発生すると船はかなり神経を使います。「もう大丈夫」となる迄、毎日/毎時間、台風の動きと発達具合に細心の注意を払います。家で雨戸を閉めたり釘付けしたり庭木に支えをするなど台風対策をするより船は遥かに嚴重に大掛かりにしっかりと台風に備えることは勿論です。その上でそのままコースを維持するか、或いはコースを変えた方がいいのか、又はエンジンを止めて台風通過を待った方がいいのか等最適・最良の方法を考えます。と云ってもそれらは単純に結論の出ることではありません。スケジュール遅延や燃料消費の増加という経済要素と船体/貨物/人命の安全という安全要素を常に頭に置いて、それらを厳しく天秤に掛けなければなりません。

せん。机上で考えるのと違って実際はいろいろな場合があり、船はいつもこれら経済要素と安全要素の狭間で悩むことになります。一つ判断を間違えればとんでもない結果が待っているかも知れません。

経済要素と安全要素を天秤にかけた時、何処かが、何かが、大きく狂い、悲惨な海難事故となった最近の話を最後に紹介します。

写真は略4年前カリブ海でハリケーンに巻き込まれ4500mの海底に沈んだアメリカの大型コンテナ船”SS EL FARO号“です。



過去30年間のアメリカ史上最大の海難事故と云われています。乗組員33名全員と積載していたコンテナ貨物や大型トレーラー全てが31,500トンの船と共に海底深く沈んでしまいました。

ハリケーンに遭遇して沈没したコンテナ船 SS EL FARO

本船は Jacksonville（フロリダ）と San Juan（プエルトリコ）の間を往復する定期航路のコンテナ船。船長（アメリカ人）は当航路に精通したベテラン船長。本船は2015年9月29日夕方コンテナを満船し Jacksonville



を出帆。その時既にハリケーンの発生を船長は知っていた。いろいろ悩んだとは思われるも船長の判断は予定通り出帆だった。そして、いつものコースで San Juan に向っていたが、10月1日午前7時39分の連絡を最後に船は行方不明となってしまった。

その後コスタガードの懸命な捜索活動が続けられ、結果、図に示す様に本船はキューバの北のカリブ海に沈没していることが分った。更にその後海底からブラックボックス (VDR, Voyage Date Recorder という) が回収され沈没当時の状況が解析された。

結果論ではあるけれど、何故本船はハリケーン Joaquin の正に真っ只中に向い、そして沈没してしまったのか、今尚ミステリーとなっています。「コンテナ船 EL FARO は何故沈没したか、その原因の

真相は海底に眠る御霊のみ知る』と、米国コーストガードの調査報告書にも書かれています。

最近、AI（人工知能）がしょっちゅうニュースの話題となっています。人間に代わってAIが何でも考え、分析し、判断し、教えてくれると云う話が多い中、ハリケーンや台風などの自然現象はまだまだ分からないことが多いと云うことだと思います。

3 外国人（英・独・豪）のガイド報告



会員 加藤 守康

2019（令和元）年、11月22日（金）朝から冷たい雨が降り、気温も上がらず、寒い1日であった。午後1時からの案内予定であったが、雨のため時間が早まり、午後12時40分頃一行5人が車で到着し、玄関前で迎え入れ、約1時間の予定で東海館を英語で案内（ガイド）することになった。

ガイドする対象者は、静岡県観光協会（Tourism Shizuoka Japan, TSJ）からゴルフ旅行誘致拡大のために日本に招かれた3か国の旅行会社からの商品企画担当者（英国人男性1人、ドイツ人女性1人、オーストラリア人男性1人）の3人であった。それに静岡県側から県観光協会の課長1人と伊東市観光課の職員1人が今回の視察に同行していた。日本の文化的な側面も見学・体験したいとの意向を聞き、伊東温泉観光文化施設としての東海館を外国人にも興味を持ってもらえるような観点から、約1時間をかけて英語で丁寧に説明し、質問にも答えた。映画化され人気を博した「テルマエ・ロマエ」の原作本（漫画本）を持参し、作中の「東林館」のモデルが「東海館」であるため、描写さ

れた日本の温泉浴場の光景と実際に目の前に見ている光景がまったく同じであることを本を指し示しながら説明した時には、皆、目を丸くして驚き、大きな反応を示したことがとても印象的であった。東海館の日本建築としての素晴らしさ、外国人の国別来館者数、伊東市の概要と見所なども会話を楽しみながら、友好的な雰囲気の中で熱心に聞いてもらえたことが嬉しかった。

1時間の案内（ガイド）も予定通り終了し、伊東駅へ向かう一行5人を玄関で見送った。静岡県（伊東）には富士山があり、自然豊かで美しく、温泉もあり、親切なおもてなしもあり、ゴルフ旅行も十分に商品になるというTSJの方策が訪日外国人客の誘致に繋がることを願いながら本日の外国人ガイドを終了した。



バクチの木



会員 石田泰嗣

「博打の木」というとんでもない名前の木がある。 正式な名前「美蘭樹」（ビランジュ）もあるのだ

が一般には「バクチの木」で通っている。伊東市では富戸の三島神社の境内の裏側にかなり太い木がある。この木を見ればその樹皮から名前の由来は想像できる。私がこの木を知ったのは「伊東自然歴史案内人会」に加わり、その研修期間中のことである。その後も何回かお目にかかっている。私は大きな木いわゆる「巨樹」を見るのが好きで、巨樹を見ると心が癒される。伊東市では葛見神社の「大楠」、八幡野の八幡宮・来宮神社の「大杉」、蓮着寺の「ヤマモモ」などがある。市外に目を向ければ天城の「太郎杉」ももちろんだが、隣町（東伊豆町）の白田の「次郎杉」が忘れられない。次郎杉のついでに立ち寄った「シラヌタの池」周辺のもミの大木も貫禄がある。巨樹で忘れてならないのが屋久杉である。20年程前のことだが友人3人で「宮之浦岳」に登ったことがある。「縄文杉」「大王杉」「紀元杉」などを見てきたがその時に一番印象に残ったのは「ウイルソン株」であった。切り取られたあとの根元の部分が残っているのだが、中が空洞になっていて数名が入れるのだ。中には祠も設けてあった。どのくらいの広さがあったのか今でははっきり覚えていないが、恐らく一番太い杉の木ではなかったかと思う。屋久杉は1000年以上のものを指す。それ以外は小杉だそうなそんな中でバクチの木にも巨樹がある。一つは伊東市の赤沢の旧・下田街道の下側の旧・東浦路沿いにある。この木を始めてみたのは案内人として活動を始めて3年目ごろであった。見たいと思っていてなかなか見られなくて、やっと見られたときは感動した。すごく立派な巨樹である。もう一本は小田原市の早川にある。この木は国の天然記念物に指定されている。しかも指定された年号が大正13年である。葛見神社の大楠も国の天然記念物に指定されているが、指定は昭和8年です。これをみてもその知名度は違うのがわかる。私はこれを見たくて友達数人で出かけたことがある。一夜城跡の近くだというのでそこまで行って探したけれど見つからない。よそから来ていたお客さんで以前見たことがあるという人がいたが今は思い出せないとのことだった。その後もう一回そこを探しに出かけたが駄目だった。その後小田原市の観光課と観光協会に電話して資料を送ってもらい個人的に一人で出かけてやっと見つけた。三度目の正直とはこのことか。なおこの地名が小田原市早川飛乱地であることを知った。「飛乱」と「美蘭」音読みが一致するのは不思議だ

＜事務局便り＞

1) ヨーロッパ人のガイド報告

伊東市観光課を通じてジオガイド協会よりヨーロッパからのゲスト3人の同行通訳・ガイド依頼があり、主原一雄さんと加藤守康さんが対応した。

3人はゴルフ旅行誘致拡大のために日本に招かれた旅行会社の担当者（英国人男性、ドイツ人女性、オーストラリア人男性）で県観光協会のゲストであった。

11/21夕方 川奈ホテルでの通訳を主原さんが、翌朝の東海館案内を加藤守康さんが対応した。ゲストは次の目的地へ発ち、ガイドは無事終了した。

2) ゴミフェスへのバザー出店

11/3（日）伊東市主催のゴミフェスティバルに会長以下6名が参加し、バザー品、温泉卵の販売を行った。毎年の恒例行事でこの収益金（約1万円）を観光番の負担金に充当します。当日参加の会員の皆さん、大変ご苦労様でした。

3) ISGG忘年会の実施

12/12夕刻イタリアレストラン「トスカナ」忘年会を実施した。

伊東・伊東商業・熱海高校ALT3名のゲストと会長以下11名の会員との懇親は料理とお酒で盛り上がり、大変楽しいものになりました。



トスカナでの忘年会

4) 伊東国際交流協会（IAIR）フェスタへの参加

2019年度IAIRフェスタが伊東観光会館別館で開催され、賛助会員のISGGも参加した。アメリカ、イギリス、イタリア、ロシア、アゼルバイジャンその他東南アジアなどの多くの外国紹介ブース、ステージでの数々のショー、食べ物販売などがあり、今年例年以上に盛大であった。ISGGもブースを提供してもらい立ち寄ってくれた人に会のPRを行った。



《編集後記》

2020年最初のNewsletterが記念すべき100号になりました。会員数20数名の小さな会ですが、こつこつと活動し、皆様が原稿を寄せてくださったおかげだと思います。最初の頃はまだパソコンやプリンターが家庭に普及していませんでしたので、当時の編集委員の方がワープロで打ち、それをコンビニに持って行って印刷し、郵送していました。コンビニの混み合う昼間は迷惑になるので、（当時はコンビニで印刷する人が多かった）夜何度も行っって小出しにして印刷し、郵送していたそうです。ここまで繋げてくれた先輩の方々に感謝です。

小西さんは普段何気なく使って、深く考えたことがない「ネズミ」のこと、全く知らなかった「庚子」のことを書いてくれました。庚子の年が良い年でありますように！

菊池さんは前号に引き続き、興味深いグローバルな台風の話を書いてくれました。台風も所変われば名前も変わり、また、気象観測の方法が進んでも自然現象（特に最近の異常気象においては）には追いつかないことを感じました。

加藤さん、東海館のガイド、ありがとうございました。加藤さんの丁寧なガイドで日本建築の良さを感じてもらえたことと思います。

石田さん、「バクチの木」とは面白い名前ですね。私も巨樹の下に立つと自分の考えや悩みの小ささを感じ癒されます。

世の中も自然現象も大きく変わっていく昨今ですが、2020 年が皆様にとって良い年でありますように！

伊東市善意通訳の会（ISGG）

会長 稲葉 尚子

（事務局） 414-0023 伊東市渚町 2-48 伊東観光番内 小西恒男

電話・FAX：0557-36-9828

e-mail：tsunemina@gmail.com

<http://itosgg.info/>

（編集委員） 稲葉尚子、曾我廣子、加藤達雄